

12 Jan Evangelista Purkyně の 生涯と業績

高橋 昭

「小脳の Purkyně の細胞」、「視覚の Purkyně 現象」など、神経解剖学、神経生理学の領域で Purkyně の名を知らぬ者はない。神経生理学者の道を歩んでいた彼が、どのような経緯から細胞形態学に関心を抱き、不朽の業績を残したのか、また、「小脳 Purkyně 細胞」の原著は日本どどの程度読まれたのか。

演者は、一九八二年初めてチェコを訪れた折に、その史跡を調べたが、徒労に帰した。幸い、一九九五年以降に、若干の資料を得ることができたので、ここに紹介する。

(一) Purkyně の生涯

Jan Evangelista Purkyně の姓名は文献上さまざまに表記がある。これは出生届がドイツ式になされたため

ある。Purkyně の姓は、日本では「プルキンエ」と記されることが多いが、チェコでは「ブルキニエ」または「ブルキンニエ」に近く発音される。

彼は一七八七年二月一七日にボヘミアの小都市 Libochovice で出生、Moravia の Piatrist 神学校を経て、プラハのカレル大学哲学科と医学部に進み、一八一九年に『自覚的観点から見た光覚に関する知見への寄与』の学位論文により学位を授与され、一八二七年 Breslau (現 Wrocław) 大学生理学教授、一八五〇年カレル大学生理学教授に就任した。一八六七年七月二八日死亡するまで学問のみならず、文化、政治面で広く活躍した。

(二) プラハ大学、Purkyně の墓など

カレル大学はボヘミア王国のカレル王(一二二六—一三七八)が一三四八年に Paris 大学を規範として創立された。イタリアの Bologna 大学などともにもつとも歴史のある大学である。一六五四年に四学部となり、「Universitas Carolo Ferdinanda」と改称、ラテン語を主体とする教育が行なわれた。一八四八年ヨーロッパ革命の年からドイツ語系の大学とチェコ語系の大学に二分され、一

九五〇年の共産主義下の改革、一九六八年の「Prahaの春」の抵抗運動などを経て、現在は一六学部から成る中欧での最大規模の大学である。

Purkyněが教授を勤めた医学部生理学研究所 Fyziologický Ústav 1 Lékařská Fakulta, Univerzita Karlova (英名 Institute of Physiology 1, Faculty of Medicine, Charles University) は Vyšehrad 丘陵の北、Vltava 河の右岸 Albertov 5, 12800, Praha 2 にある。Purkyně の研究室は Purkyněův Ústav の名をもつ四階建の独立棟で、正面玄関ロビーの壁面に歴代教授の系譜と Purkyně の大きな肖像画が掲げられている。教授室には Purkyně の別の肖像画と、チェコ語で書かれた Purkyně の箴言が掲示されている。

Purkyně の墓所は、大学生理学研究所の南に隣接する Vyšehrad の丘、かつての古城の址に作られた墓地にある。PURKYNĚ* [1787 + 1869] と刻まれている。

(3) Purkyně の神経解剖学的業績

生理学者の道を歩いていた Purkyně が、神経解剖学の研究に没頭したのは一八二〇—一八三〇年代の約十五

年間である。この頃、彼は高性能の顕微鏡を入手し、彼の周辺に、末梢神経線維が管状構造を有することを記載した Dutrochet (一八二四)、脊髄後根神経節および交感神経節の神経細胞を記載し、また無髄と有髄とに末梢神経を分離した Ehrenberg (一八三六)、植物の細胞学を樹立した Schleiden (一八三八)、動植物の細胞学に偉大な貢献をした Schwann (一八三九) などの業績が続々と発表された時代に当たっていたためかと考えられる。

Purkyně は一八三七年に Praha で開催された「Versammlung Deutscher Naturforscher und Aerzte」で中枢神経組織の細胞形態について九月二三日に講演した。

この内容は「翌一八三八年に Praha で発行された「Bericht über die Versammlung Deutscher Naturforscher und Aerzte」に掲載された。その内容は「管状構造をもつ単一神経線維」、「脳動脈への交感神経線維」、「脈絡叢の組織像」、「小脳皮質神経細胞 (= Purkyně 細胞)」、「澱粉顆粒様細胞 (アミロイド小体)」であり、いずれも歴史に残る業績である。

(公立学校共済組合東海中央病院)